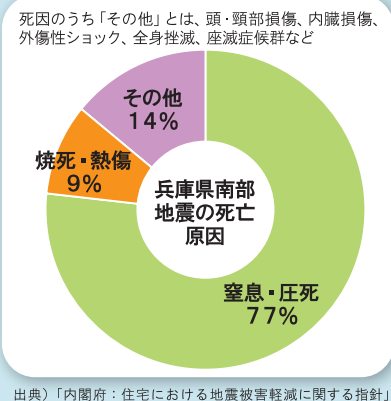


兵庫県南部地震による犠牲者の多くが、倒壊した住宅に押しつぶされてなくなる「圧死」でした。このような被害を減らすためには、住宅等の耐震化が重要になってきます。



※流山市地震ハザードマップで示している3つのマップは、50メートルのメッシュ単位で表したものです。



【平成16年 新潟県中越地震】

流山市地震ハザードマップは、建物の耐震化を促進するため、大地震が発生したとき

- お住まいの地域がどのくらい揺れるのかと避難所・避難場所の位置「揺れやすさ・防災マップ」、
- 地域での建物倒壊の危険性「地域の危険度マップ」、
- 液状化の危険性「液状化危険度マップ」

について、避難場所や公共施設、地震が起こる前にできることなどといった、身近な防災情報と共に示したものです。

このマップの利用方法

この地震ハザードマップを参考にして、以下の項目を確認してみましょう。

- 自宅やよく行く施設、場所、よく通るところの危険度の確認
- 避難する場所や避難ルートの確認
- 家具の転倒防止や備蓄品および非常時持ち出し品
- 自宅の耐震診断（簡易耐震診断）や耐震改修
- 地域の自主防災組織の活動

流山市で想定される地震

発生のおしきと地震のタイプ

地震は、地下の岩盤に力が加わり、ある面（断層面）を境にして両側の岩盤がずれ動く断層運動により発生します。プレートの沈み込みにより、岩盤は次第に変形し、ひずみという形でエネルギーが蓄積されますが、ひずみが限界に達すると岩盤の破壊（地震）が起こり、蓄えられていたエネルギーが地震波となって放出されます。この地震波が地中を伝わり、地面を揺らすことになります。

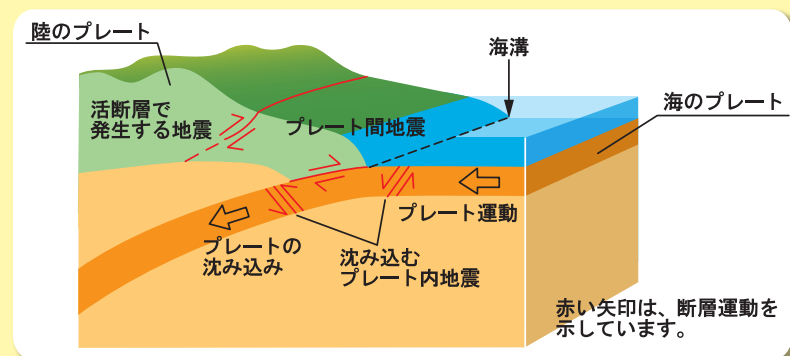
日本周辺で発生する地震は、活断層の活動による「活断層地震」とプレートの沈み込みによる「海溝型地震」に大別することができます。

■ 活断層地震

陸域で主に活断層が動いて起こる地震です。規模は小さいものの、震源からの距離が近いために大きな被害が発生することが多くあります。「平成7年 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）（マグニチュード7.3）」、「平成16年 新潟県中越地震（マグニチュード6.8）」「令和6年 能登半島地震（マグニチュード7.6）」など

■ 海溝型地震

プレートの沈み込みにより起こる地震で、これには「プレート間地震」と「プレート内地震」があります。規模が大きく、また大規模な津波による被害も発生することがあります。プレート内地震：「平成6年 北海道東方沖地震（マグニチュード8.2）」などプレート間地震：「平成23年 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（マグニチュード9.0）」など



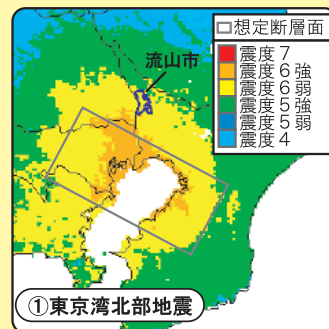
文部科学省「地震がわかる！、防災担当者参考用資料」を基に作成

想定した地震

この地震ハザードマップの作成にあたっては、国や千葉県の調査結果を参考として、流山市への影響が大きいと想定される、下記の3つの地震を想定しました。

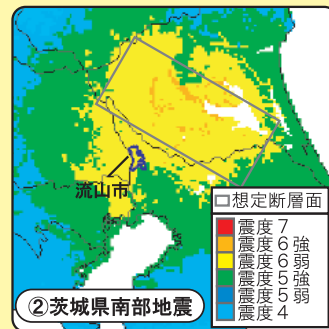
①東京湾北部地震（海溝型地震、マグニチュード7.3）

ある程度の切迫性が高いと考えられ、首都直下地震対策を検討していく上で中心となっている地震です。内閣府中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」によれば、マグニチュード7クラスの直下地震については発生する可能性があるとして



②茨城県南部地震（海溝型地震、マグニチュード7.3）

内閣府中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」により、マグニチュード7.3の地震として評価されています。フィリピン海プレートと北米プレートとの境界で発生する地震です。



③流山市直下の地震（未知の断層地震、マグニチュード7.3）

流山市周辺に大きな活断層はありませんが、現在知られている活断層以外にも地震を発生させる断層が存在すると言われています。こうした地震は、例えば平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震のように、いつどこで起こるか分からないため、防災上の観点から、流山市の直下にマグニチュード7.3の地震を想定しました。